

第2期みたけ創生!!総合戦略



2020年3月 初版

御嵩町

第2期みたけ創生!!総合戦略 目次

第1章 総合戦略の策定にあたって	1
1. 総合戦略の位置づけ	1
2. 総合戦略の期間	1
3. 戦略の策定体制	1
4. 戦略のフォローアップ	3
第2章 総合戦略の方向性	4
1. 総合戦略の推進の理念	4
2. 総合戦略の新たな4つの視点	5
3. 総合戦略の基本目標	9
4. 施策の体系	11
第3章 総合戦略の施策	12
基本目標1 自然のエネルギー活用を	12
基本目標2 安心してワクワクするきずなを	17
基本目標3 挑戦のバイタリティーを	22
基本目標4 みたけのレガシー創出を	28

第1章 総合戦略策定にあたって

1 総合戦略の位置づけ

本戦略は、「御嵩町人口ビジョン」とその改訂（2019年度）で示している御嵩町の人口を取り巻く現状や課題、今後の方向性を踏まえ、「みたけ創生!!総合戦略」（2015年10月策定）を検証・改訂して「第2期みたけ創生!!総合戦略」として策定したものです。また、本戦略は「御嵩町第五次総合計画」に示すまちづくりを具体的に進めるためのアクションプランとしての役割を担います。

「みたけ創生!!総合戦略」においては、御嵩町のポテンシャルを最大限活用して「みたけオリジナル、なまち・ひと・しごと創生のための実現可能な取組みについて示して、施策・事業を推進してきました。

その後、国においては社会変化の動きや今後の予想を整理するとともに、新たな視点を掲げて検討を重ね、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2019年12月）を策定しました。また、岐阜県においても「第2期『清流の国ぎふ』創生総合戦略」（2019年12月）を策定しており、本総合戦略はこれらの内容を踏まえています。

2 総合戦略の対象期間

【2020年度（令和2年度）～2024年度（令和6年度）】

3 戦略の策定体制

本戦略の策定に際しては、次のような体制により様々な立場からの意見を聴取するとともに、広く住民の意見の把握に努めました。

(1) 策定体制

図表 1-1 総合戦略の策定体制

名称	目的	構成等
御嵩町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部	戦略の内容について政策的な判断や決定を行うために、審議・検討を実施	町長、副町長、教育長、部長及び参事
みたけ創生有識者会議	戦略の内容について産官学金労言の各分野から特に専門的知見から意見をj得るために、審議・検討を実施	産：東海化成工業(株) ながたに農園 官：岐阜県 学：岐阜大学、名古屋芸術大学 金：十六銀行御嵩支店 労：学校法人荻須学園 言：(株)ケーブルテレビ可児
課長会議、係長会議	総合戦略の個別施策について、部局横断的な検討、議論を実施	係長職以上の職員
御嵩町議会	総合戦略の内容、その推進等について意見交換等を実施	全員協議会等

(2) 住民等の意見の把握

図表 1-2 住民等の意見把握のための調査概要

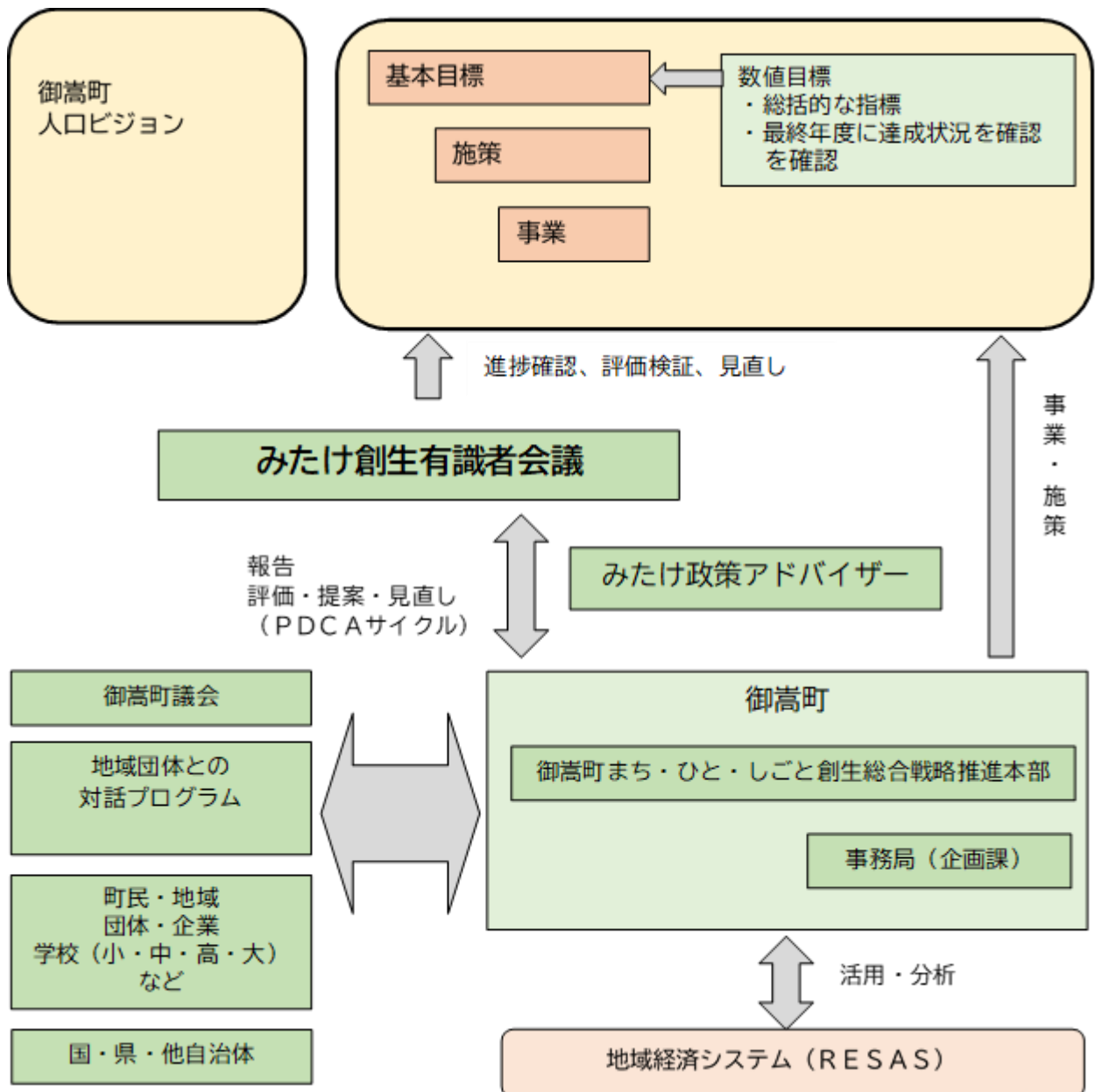
名称	目的	概要等
「まちづくり」についてのアンケート調査	町民を対象として、安心して暮らし続けることができ、若者が夢を描くことができるまちづくりを検討するための現状や課題、意見を把握	・18歳以上の町民を無作為抽出 ・配布数 1,800/回収数 748人
中学生アンケート調査	中学生を対象として、若者から見た御嵩町の現状・課題、まちづくりに対する意見を把握	・町内3中学校3年生 ・配布数 167/回収数 160人
東濃高校、東濃実業高校ヒアリング調査	高校生の居住地等のプロフィール、進学・就職の傾向や希望、町内における活動や町とのかかわりの状況や今後について把握	・進路担当教諭等
子育てグループヒアリング調査	御嵩町に居住する理由、御嵩町の住みやすさ・子育てしやすさ、子育て環境等についての要望などについて把握	・「がんばりママクッキング」の折にクッキング参加者(11名)

4 戦略のフォローアップ

第1期の総合戦略においては、その着実な推進のために、各施策・事業の達成状況について、毎年度、客観的な評価・検証を行ってきており、引き続き的確な進捗管理を行います。

また、本戦略においても、施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定しており、またそれらの総括的な指標として、基本目標ごとに数値目標を設定しています。KPIについては毎年度、評価・検証を行い、PDCA（計画、実行、評価、改善）の視点で、達成状況に応じた取り組みの改善を行います。また、計画の最終年度（2024年度）数値目標の達成状況を確認し、戦略の評価を行います。

図表1-3 総合戦略の策定体制



第2章 総合戦略の方向性

1 総合戦略の推進の理念

御嵩町においては第1期の「みたけ創生!!総合戦略」に基づいて、「みたけ創生に向けた“チャレンジ、”という視点を掲げて、個性あるまちづくりとまち・ひと・しごとの魅力を高め、町の内外から「選ばれる」まちづくりを進めてきました。

本戦略においては、第1期のチャレンジの精神を継承するとともに、今まで培い深めてきたひとや取組みのつながりの更なる「深化」を図ります。

つまり、御嵩町の「真価」を見出して、さらに新たな取組みの展開を図り、これらの取組みがつながり、連環して、より効果的に成果を築くことを目指します。

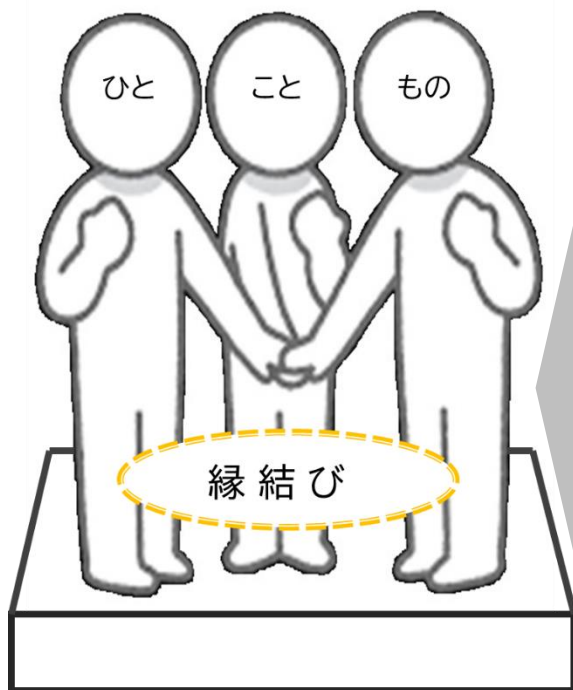
さらに、新たなひとのつながりや取組みを起こして、御嵩町が「出会いと賑わい」の町となり御嵩町に住むことや訪れることはもちろん、御嵩町と多様な関わりを持つ人々が「人が人を呼んで」増える方向として、

「きずな、と つなぎ、でみたけ創生」

を目指します。

このため、森林の緑と清流で彩られ、中山道の歴史文化が根付いている舞台を活かして、御嵩町はまさに、「ひと」「こと」「もの」の縁結びを理念として掲げて総合戦略を進めます。

図表2-1 総合戦略の推進の理念



御嵩町のポテンシャル

- 環境モデル都市の取組み
- 豊かな自然環境
- 亜炭鉱廃坑対策
- 中山道や願興寺をはじめとした歴史文化
- 名鉄広見線、東海環状自動車道のほかりニア中央新幹線開通見込など大都市圏のアクセスのよさ
- 元気な町民による積極的なまちづくり
- 高校が2校立地

新たな総合戦略の視点（国など）

- 未来技術の活用
- 人材育成・関係人口
- 働き方改革
- SDGsの推進

社会経済動向

- 本格的な人口減少社会へ
- 分権型社会の形成
- 持続可能な社会を目指す動き
- グローバル競争の激化とAI、IoTなどの新技術の普及
- 固有の観光交流資源の活用
- 安全・安心な暮らしの実現を図るコミュニティのニーズの高まり
- 高速交通体系の充実と大都市圏とのアクセス機能強化

2 総合戦略の新たな4つの視点

第2期総合戦略の推進に際しては、国が示すように SDGs の推進との関連性や、町内における豊かな生活を維持するための拠点づくりの考え方、御嵩町として創出する関係人口を明らかにします。

(1) SDGsの推進

2015年9月に国連で合意された世界共通の目標である SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) は誰一人として取り残さないことを目指し、先進国と途上国が一丸となって達成すべき目標を示したものです。従来、持続可能性に大きく関わると認識されてきた環境分野のみならず、貧困、飢餓の解消、健康・福祉、教育、ジェンダー平等、平和と公正という目標も掲げられており、世界的に考え方が浸透しつつあります。

こうした国際的な流れの中で、地方創生は「潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会」を目指すために、SDGs のアプローチと同様に、環境のみならず福祉、教育、産業、防災等の地域の安全、都市構造や居住環境の改善など総合性が求められるまちづくりにも必要になっています。

御嵩町は、国(内閣官房)より「環境モデル都市」に選定されて、温室効果ガスの大幅削減など目標を掲げて先駆的な取組みを推進してきた実績があり、優れた自然環境を保全するとともに地球環境へ配慮しながら住民のライフスタイルの変革を進めてきました。また、御嵩町は地方創生の推進、さらに総合計画によるまちづくりにおいては、住民生活や産業活動に必要な行政施策を進めており、その方策としてパートナーシップを形成してきました。

そこで本戦略においては、SDGs に示されている目標の達成について、総合戦略を推進しながら取り組んでいく視点で、それぞれの施策等の SDGs との関連を捉えていくものとします。

図表2-2 SDGsの17の目標



図表 2 - 3 17の目標とその補足

1. 貧困の撲滅（あらゆる場所で貧困に終止符を打つ）
2. 飢餓撲滅、食料安全保障（食料の安定確保と栄養状態の改善、持続可能な農業）
3. 健康・福祉（すべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進）
4. 万人への質の高い教育、生涯学習（公平で質の高い教育を提供し生涯学習を促進）
5. ジェンダー平等（平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメント）
6. 水・衛生の利用可能性（すべての人に水と衛生へのアクセス）
7. エネルギーへのアクセス（手ごろで信頼でき持続可能、近代的なエネルギーへ）
8. 包摂的で持続可能な経済成長、雇用（生産的な完全雇用、働きがいのある人間らしい仕事）
9. 強靱なインフラ、工業化・イノベーション（持続可能な産業化、技術革新）
10. 国内と国家間の不平等の是正
11. 持続可能な都市（都市を住み続けられるように）
12. 持続可能な消費と生産
13. 気候変動への対処（気候変動の影響に立ち向かうため、緊急対策）
14. 海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用（海の豊かさを守る）
15. 陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、生物多様性（陸の豊かさを守る）
16. 平和で包摂的な社会の促進（平和な社会、全ての人に司法へのアクセス）
17. 実施手段の強化と持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップの活性化（持続可能な開発に向けて実施手段を強化）

（2）「興味を惹く」地域の形成

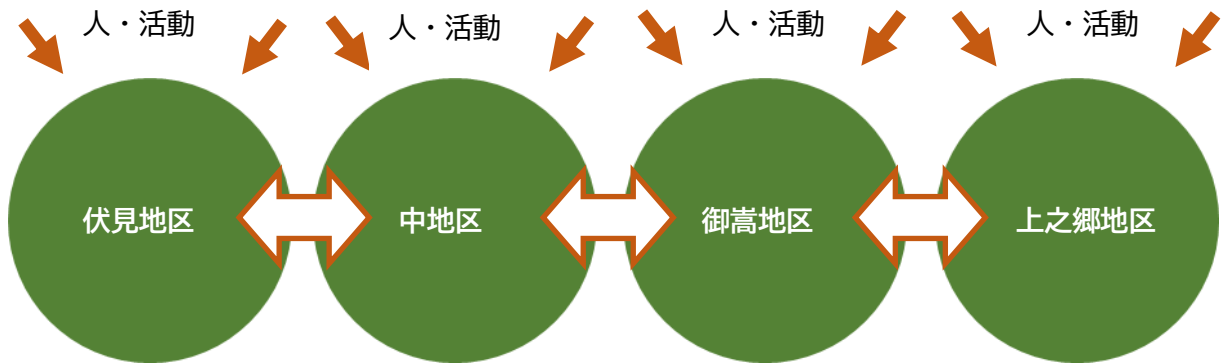
総合戦略は、御嵩町が住民、企業とともに一体的になって「出会いと賑わい」を創出するものです。

人口対策とともに、人口減少社会への対応が求められる中では、新たな都市構造を展望しながら、コミュニティの維持と新たな「生業（しごと、社会的活動）」が創出できる、興味を惹き活力を創出する地域の形成が求められます。

たとえば、高齢になっても歩いて生活することができる徒歩圏での生活サービスを充実することや、コンパクトでエネルギー消費が少ない地区の形成などスマートなまちを目指すことなどです。

上之郷、御嵩、中、伏見の各地区においては人口減少社会の中においてコミュニティを維持して快適で豊かな生活を営み続けることができ、さらに特色ある「出会いと賑わい」の創出を目指します。各地区における公民館や既存の都市機能などを活用しながら、特色ある取組みを進めるとともに、地区相互が連携して取組みのレベルアップを図ります。

図表 2-4 4つの地区における「元気で面白い」拠点づくりのイメージ



<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄駅（近接） ・伏見宿 ・東濃実業高校 ・ショッピングセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄駅 ・東海環状自動車道 ・可児御嵩 IC ・ぽっぽかん 	<ul style="list-style-type: none"> ・名鉄駅（近接） ・御嶽宿 ・中山道みたけ館 ・東濃高校 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点 ・宿泊機能 ・中山道と自然散策
--	---	---	---

(3) 「関係人口」創出の方針

全国的に人口減少が進む中では、移住する「定住人口」の確保や、観光に來訪するなどの「交流人口」のほかに、地域と御嵩町について興味を感じてくれて、町民と継続的に交流や活動によって“きずな”や“つながり”を深め、「面白い」考え方や活動、生き方を実現する人々を創出して地域の持続性を高める必要があります。

人々の目的と滞在期間で人口の種類について整理すると、特に御嵩町にルーツがある人や、御嵩町を行き来する人、関わりを持っていた人々のうちから、ターゲットを絞って「関係人口」を創出します。

図表 2-5 目的・滞在期間と「関係人口」 (※：関係人口、関係人口を含むもの)

	通 年	滞 在	来 訪
住む人	住民 近居※	別荘※ 実家※ 二地域居住※	帰省※ 空き家管理※ お試し居住※
働く人	常住就業者 通勤流入就業者※	セカンドオフィス※ サテライトオフィス※ シェアオフィス※ ワーキングホリデー※ 農林業サポーター※ 職業訓練※ CSR 活動※	コワーキング※ 展示会※ 会議※ 研修※ CSR 活動※
学ぶ人	常住学生・生徒等 通学学生・生徒等※ 塾・予備校※	サマースクール※ サテライト研究室※	サマーキャンプ 合宿
楽しむ人	自然公園、運動公園※ スポーツクラブ※ 趣味の集い※	滞在型観光プログラム	交流イベント等 インバウンド

御嵩町においては、下記のようなターゲットの「関係人口」を創出して、御嵩町に「面白く」関わりを持ってもらい、それを通じて町民との交流を深めて、お互いの楽しみや生きがいを高めて、“きずな”と“つなぎ”を継続的に深めていきます。

図表 2 - 6 御嵩町が創出を目指す「関係人口」のイメージ

- 御嵩町にルーツがある人々などとの関係を深める
 - ・本人や親などの親族が御嵩町出身者の人々を掘り起こして、今の御嵩町や取組みについて情報発信
 - ・御嵩町に関心を持ちファンになった人々を人づてや SNS などに関係性を持ち、情報発信等を通じて第二の故郷として愛着を醸成
- 御嵩町で学ぶ・学んだ人々との関係を深める：高等学校、教える人の確保
 - ・伝統のある東濃高校、東濃実業高校との連携を深めるとともに、OBとのつながりを再生
 - ・子どもや若者同士が教え合うような教育・生涯学習を展開することや、OBとともに町民が御嵩をフィールドに活躍
 - ・夏季などの大学の研究室・ゼミのサテライトの確保など
- 新たなワーク・ライフスタイルの場をつくる：御嵩町で可能な仕事の持ち込み・御嵩を稼ぐ拠点にしてもらう
 - ・御嵩町で可能な仕事をもち込みながら、しごとのための滞在
 - ・二地域居住が可能なワーク・ライフスタイルの場を創出と将来的なオフィスの移転促進
- SDGs 推進への企業活動促進：企業と学び合い行動する機会の創出
 - ・町内外から参加している「企業の森」の成果を活かして、世界的に関心が高まっている SDGs にかかわる町や企業の取組みについて学び合い、活動を展開
- 御嵩町の多彩な情報発信の展開：縁のある人による情報発信、インフルエンサーの確保
 - ・御嵩町出身者や御嵩町の魅力・「面白さ」を感じる人々による御嵩町の情報を発信促進
 - ・御嵩町に訪れて御嵩ファンのつながりの拡大
- 御嵩町を環境教育のフィールド、舞台とする
 - ・豊かな自然をフィールドとして自然の循環、生態系などを学習
 - ・芸術系大学などの学生、アーティストなど幅広い層が環境アートを滞在して製作

(4) ダイバーシティ（多様性のある社会づくり）の推進

人口減少社会においては地域が開放的、積極的に世代間、国際間の交流を進めることで相互理解を深め、心と心のつながりをつくり深めることが必要です。このため、御嵩町の資源を再評価して活かし、誰もが活躍することができるように、お互いに尊重し合い助け合う社会を形成します。

御嵩町においては、日本への定住・永住希望する外国人や来訪する外国人も増えていることから、相互理解による多文化共生のほか、企業におけるテレワークなどの働き方の多様ななど、多様な人材による多様な働き方を推進します。

それぞれの町民や御嵩町にかかわりたい人材に活躍の機会を提供することや、提案してもらう機会を創出して、活躍する人材を拡大していきます。

3 総合戦略の基本目標

御嵩町に住み関わる次代を担う人づくりを目指して4つの目標を掲げて、それぞれの目指すべき方向性に即して具体的な施策・事業を展開します。

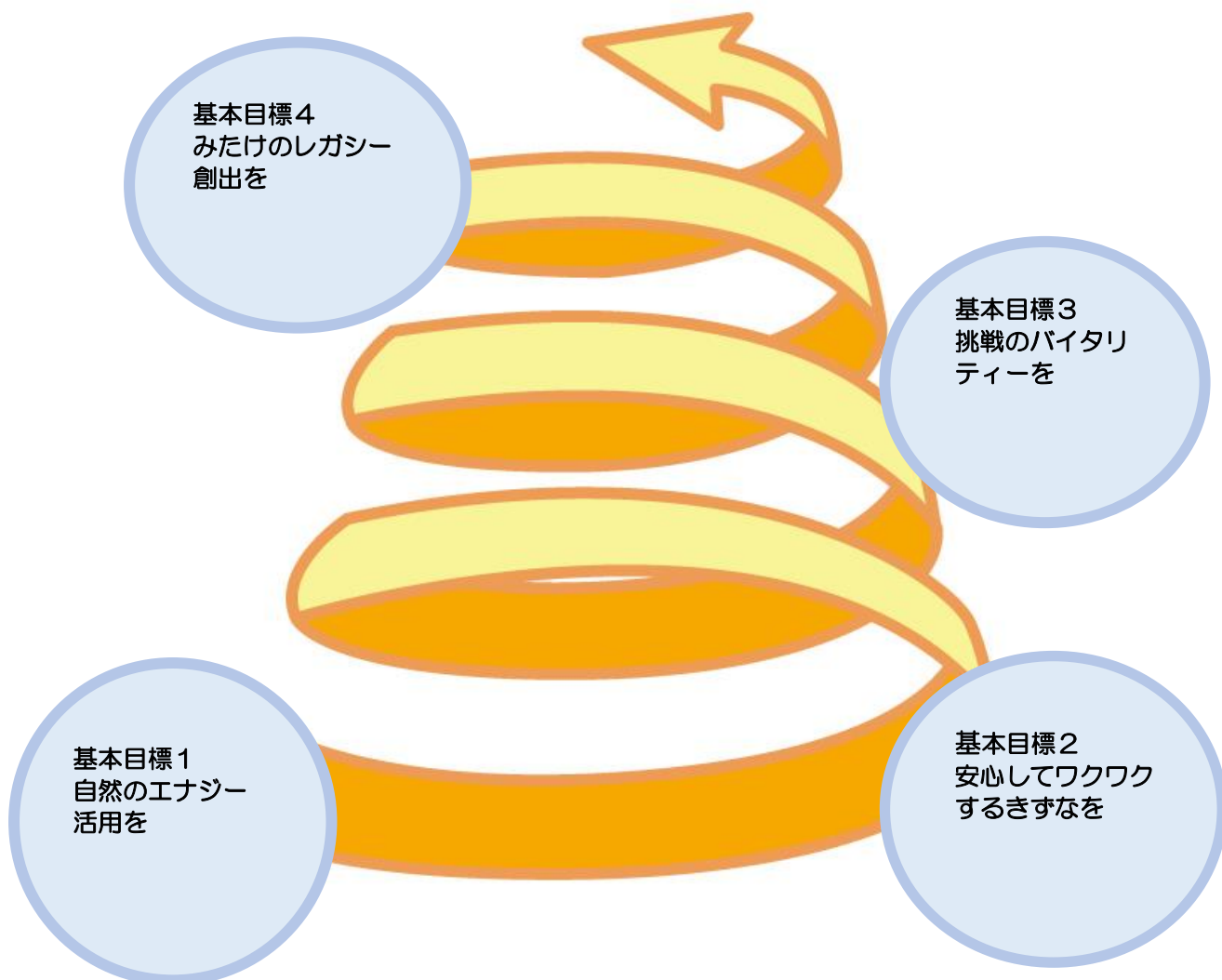
自然のエネルギーを活かした「環境のみたけ」の創造（目標1 自然のエネルギー活用を）、地域における安心して楽しいきずなづくり（目標2 安心してワクワクするきずなを）を進めることによって、御嵩町の資源を活かして舞台を整えます。

さらに、この舞台を活かして稼ぐ人が躍動する挑戦の機会を増やし（目標3 挑戦のバイタリティーを）、他地域からも注目される興味深い取組みを進め（目標4 御嵩のレガシー創出を）、これらにより御嵩町の真価を高め、定住人口、交流人口、関係人口を創出します。

総合戦略をより効果的・効率的に推進するためには、「ひと」「こと」「もの」の「縁結び」という推進の理念を念頭に置きながら、取組み相互の連携を図り、より効果的に施策・事業を進め、スパイラル（螺旋）を描くようにその内容が発展するようにします。

図2-6 総合戦略推進の理念と基本目標

“きずな”と“つなぎ”



【基本目標 1】 自然のエネルギー活用を

大都市圏に近く自然にも恵まれている御嵩町の特徴を一層高めてSDGsの取組みを先導します。環境モデル都市としての取組みを一層推進して、CO₂の排出抑制や自然環境の保全を進めるとともに、環境意識が高く行動に移すことができる人づくりを推進します。

【基本目標 2】 安心でワクワクするきずなを

地域社会が持続して新たな定住人口や交流を創出するために、御嵩町に住み続けやすく住みたくくなるような子育てしやすい環境を一層充実します。

【基本目標 3】 挑戦のバイタリティーを

雇用の場を創出するとともに人材確保ができるように、町内の事業者・立地企業などによる新産業創出や地域ブランド開発、事業者や住民による観光交流を支援するとともに、産業人材を育成するための教育を充実します。

【基本目標 4】 みたけのレガシー創出を

御嵩町の魅力を高めながら御嵩町の関係人口を開拓するために、興味深い「こと」をつくり関心を持ってくれる層を掘り起こすことができる情報発信を強化します。

4 施策の体系

第2期総合戦略においては4つの基本目標ごとに施策を掲げて、施策を推進するものとします。

図表2-8 基本目標と施策

基本目標	施策
【基本目標1】 自然のエネルギー 活用を	施策1 エネルギーの需給と循環利用
	施策2 自然環境の保全と活用
	施策3 環境意識の向上と環境教育の一層の推進
【基本目標2】 安心してワクワクする きずなを	施策1 安心して子育て・子育てしやすい環境づくり
	施策2 移住促進、2地域居住等による定住・関係人口の創出
	施策3 暮らしの安全・安心の確保
【基本目標3】 挑戦のバイタリティー を	施策1 IoT、AI等を活用した新産業創出
	施策2 農林産品等の資源を活かしたブランド開発・販路拡大
	施策3 新産業分野の人材育成のためのキャリア教育
	施策4 着地型・体験型の観光交流の推進
【基本目標4】 みたけのレガシー 創出を	施策1 興味深い取組みへの支援
	施策2 みたけの興味深い「こと」づくりを情報発信
	施策3 地域を担う人材の育成と活用
	施策4 外部人材の登用で興味を惹くまちに

第3章 総合戦略の施策

基本目標 1 自然のエネルギー活用を

目指す将来の姿

- 住民や企業の実践により、CO₂ 排出の削減が進み、地球環境にやさしいまちを形成しています。
- 「環境モデル都市」の実践が発展し、環境、社会、経済の真価が創造されて、まちの活力が高まっています。
- 御嵩町の一大産業を支えた鉄道が住民の足として維持され、関連する公共交通の利用促進が進むとともに、環境に配慮して自動車に頼りすぎずに自転車や徒歩で移動している住民が増えています。

※環境モデル都市

- ・「環境未来都市」構想の基盤を支える低炭素都市
- ・温室効果ガス排出の大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取り組みにチャレンジする都市・地域

※環境未来都市

- ・環境、社会、経済の三側面に優れた、より高いレベルの持続可能な都市
- ・環境・超高齢化対応等に向けた、人間中心に新たな価値を創造する都市

◇数値目標

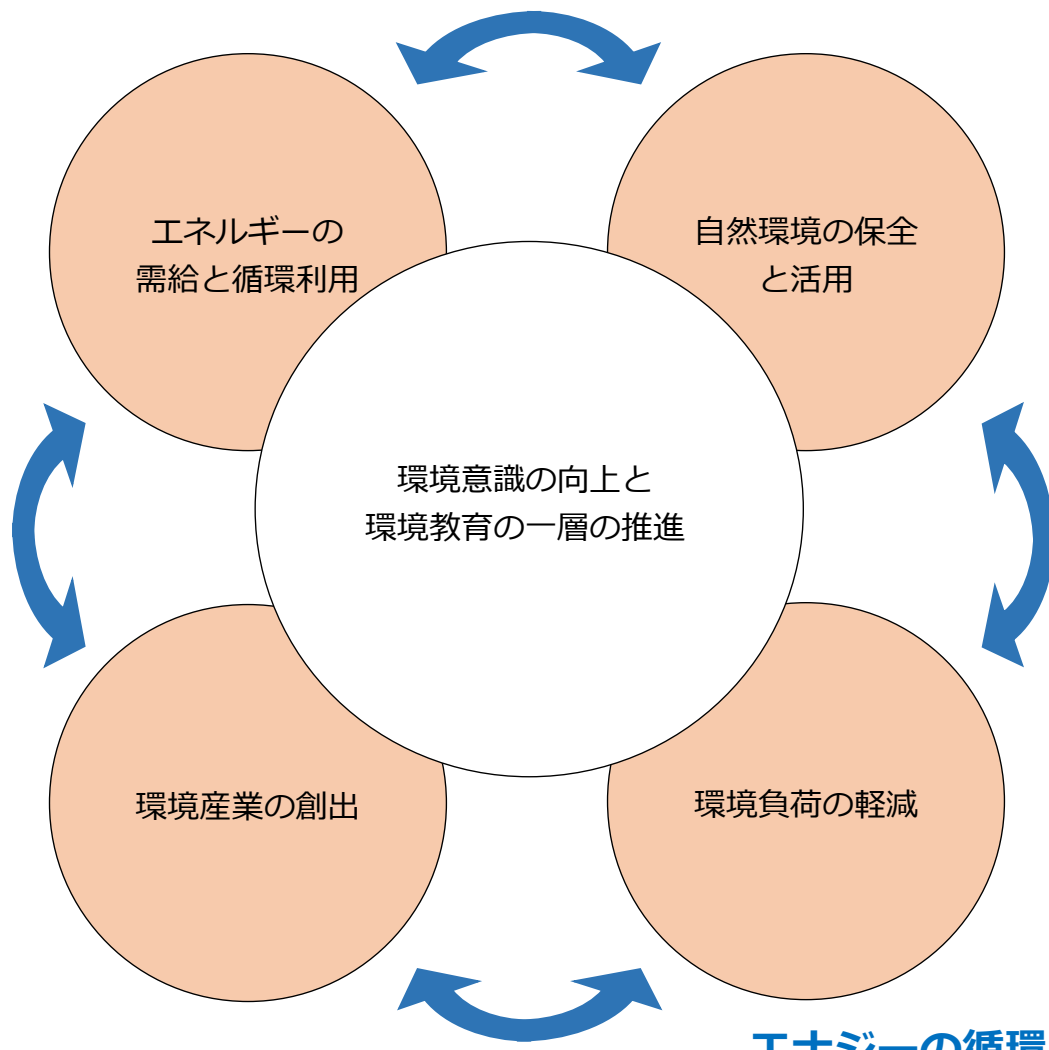
	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
CO ₂ の削減量	—	—	20,217 t	38,881 t
環境モデル都市の認知度	—	—	65.9%	65.9%

◇SDGsの推進



- ◎持続可能な開発のための教育を推進します。
- ◎再生可能エネルギーの導入を促進します。
- ◎環境産業の展開により持続可能な産業化を促進します。
- ◎森林を保全して温室効果ガスの吸収力を高めます。
- ◎森林と山地生態系の保全と、持続可能な森林経営を進めます。

推進イメージ



エネルギーの循環と連携

施策1 エネルギーの需給と循環利用

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
太陽光発電設置世帯数	350世帯	650世帯	480世帯	780世帯
名鉄広見線（新可児～御嵩間）延べ利用者数	—	—	896,043 カント	898,000 カント
公共交通（自主運行バス）の利用者数	25,923人	26,000人	24,069人	25,000人
レンタサイクル利用者数	279人	418人	142人	213人

◇施策の方向

エネルギーの「地産地消」の取組みを進めるために公共施設や住宅への太陽光発電、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入を進め、災害時においてもエネルギー確保が可能になるようにしくみづくりを進めます。

また、住民の移動手段として環境にやさしい公共交通や自転車、徒歩での移動の促進を図り、観光客など来訪者にも利用を促します。

◇主な施策

施策1 再生可能エネルギーを活用した拠点づくりと支え合いのしくみづくり		
事業1	公共施設等への再生可能エネルギー等導入事業	公共施設や住宅への太陽光発電や燃料電池など、再生可能エネルギーの導入を推進します。
事業2	災害時における地域支援条件付き太陽光発電設備設置支援事業	災害時における近隣への電気の融通という「共助」の約束を条件に、太陽光発電設備の設置を支援します。
施策2 木材を活用した再生可能エネルギーの普及促進		
事業	薪ストーブ推進事業	薪ストーブの導入により「木材の地産地消」による利用を推進します。
施策3 過度に自動車に頼らないための移動の利便性の向上		
事業1	公共交通ネットワークの形成、利用促進事業	町内各地と周辺都市を結ぶ公共交通ネットワーク形成による利便性の向上のほか、各種利用促進施策を展開します。
事業2	ノーマイカーデー運動推進事業	自動車の利用を控える日を設けて、自動車によるCO2排出の削減を促進します。

その他主な事業

- ・次世代自動車等の普及促進事業
- ・レンタサイクル活用事業

施策2 自然環境の保全と活用

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
地域住民等による里山保全活動参加者数	－	－	560人	610人
企業との協働による森林づくり協定を締結した森林面積	20.0ha	40ha	40.4ha	40.4ha
森林経営計画樹立面積	－	－	462.0ha	562.0ha

◇施策の方向

民間企業や住民ボランティアなど、多様な主体と連携・協働して、さまざまな資源の供給源たる森林の保全を進めます。

森林ボランティア「水土里隊」や中学生、高校生との協働による森林保全の取組みを充実するとともに、まちぐるみで森林の持続性を高めます。

◇主な施策

施策1 地域住民等による森林保全活動の推進と普及啓発		
事業	企業や森林ボランティアによる森づくり事業	企業や森林ボランティアと協働して、森林の持つ機能の発揮を促進させるとともに、林業体験や間伐材を利用した環境教育などを通じて多様な主体に森林保全の大切さを伝えます。
施策2 森林の適正な維持管理の推進		
事業	森林活用に関する意向調査事業	森林所有者に森林の管理に関する調査を行い、森林管理の集約化を図ります。
施策3 持続可能な森林経営の強化と拡大		
事業	森林経営信託拡張事業	森林経営信託による森林整備面積の拡大と、周辺の民有林における森林整備の促進を図ります。
<p>その他主な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携した多様な実験林形成事業 ・不適正開発防止事業 ・御嵩町名木等認定事業 		

施策3 環境意識の向上と環境教育の一層の推進

◇ K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
環境学習講座の参加人数	—	500人以上	663人	1,000人
一般廃棄物生活系可燃物に占めるプラスチック製容器包装収集量の割合	—	—	3.1%	4.0%

◇ 施策の方向

豊かな森林環境などを活かしてまちぐるみでの環境保全活動を促進するため、子どもや高齢者を含め幅広い世代において環境モデル都市を進める人づくりを進めます。

森林をフィールドとし、木育や環境教育を展開するとともに、家庭や地域での取組みや他地域との取組みを進めながら、環境保全について学び行動することを促します。

◇ 主な施策

施策1 豊かな自然環境やごみの減量に対する理解の促進		
事業1	ぎふ・みたけの木育推進事業	木材を使用したおもちゃや遊具づくりなどを通じて、木や森林の大切さなどの「学び」を推進します。
事業2	地域におけるごみの減量啓発事業	学校や地域の交流施設などにおいてごみの減量やリサイクルの方法等について幅広い世代に対し啓発します。
施策2 地域が主体となった環境教育活動の推進		
事業	環境教育推進事業	環境講座のプログラム・教材やコンテンツ等を活用し各種イベントや講座を展開することで、地域ぐるみの環境教育を推進します。
その他主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみたい肥化促進事業 ・ ICT活用による環境教育推進事業 ・ 向こう三軒両隣節電チャレンジ省エネ活動推進事業 ・ SDGs 未来都市・環境未来都市、環境モデル都市間の森林を主体とした循環型エネルギー学習推進事業 ・ 環境アートの創作展開事業 		

基本目標2 安心してワクワクするきずなを

目指す将来の姿

- ◎妊娠、出産からの子育て支援や教育が切れ目なく提供されており、子育て世代が安心して定住しています。
- ◎防災対策が進むとともに、地域における自助、共助が進み、住民が支え合い、安心して暮らし続けています。

◇数値目標

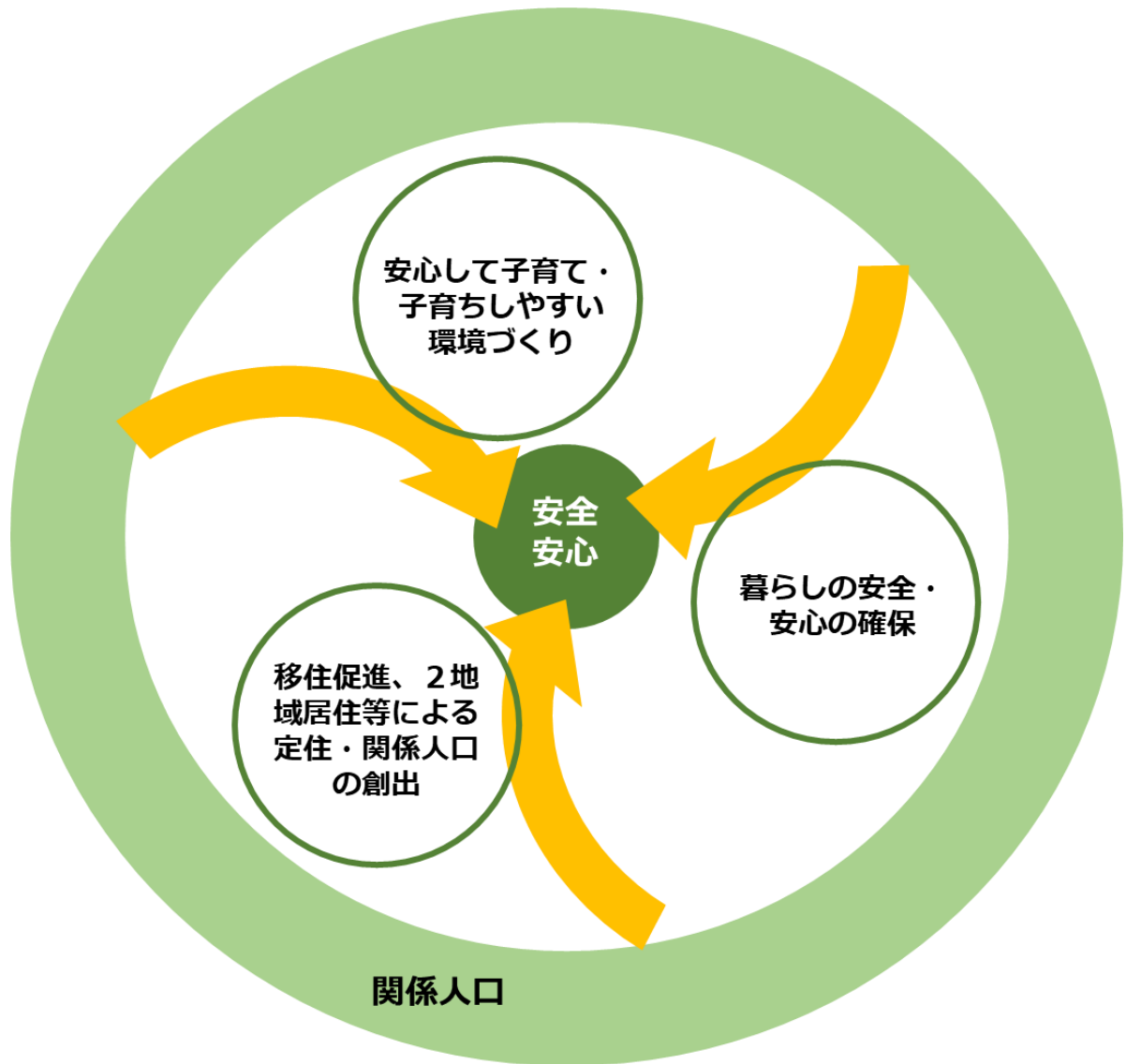
	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
御嵩町は「住みよい」と感じる町民の割合	58.5%	60.0%	55.6%	60.0%
子育て環境や支援への満足度	未就学児 3.1点 小学生保護者 2.9点	3.5点	未就学児 3.2点 小学生保護者 3.0点	3.5点
防災体制への満足度	12.3%	15.0%	20.4%	23.0%

◇SDGsの推進



- ◎ワーク・ライフ・バランスを促進して、家庭や地域における子育て支援を進めます。
- ◎人々に安全で包括的かつ利用が可能な公共スペース等を提供します。
- ◎自然災害に対する強靱性や能力を適応強化します。

推進イメージ



施策1 安心して子育て・子育てしやすい環境づくり

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
保育園待機児童数	0人	0人	0人	0人
1歳6か月～3歳の子どもの朝食欠食者の割合	-	-	4.3%	0%

◇施策の方向

御嵩町で子どもを安心して生み育てることができ、住み続けられるように、妊娠・出産・子育てにわたる切れ目ない支援と、多様な子育て支援ニーズへ対応することができるサービスや環境を整えます。

また、子どもを持つ家庭が定住地として御嵩町を選択し、子どもがたくましく生き、豊かな人間性を養うことができるような教育を地域とともに進めます。

◇主な施策

施策1 「切れ目ない支援」の充実		
事業	子育て世代包括支援事業	保健師、保育士等の専門スタッフによる相談対応や関係機関との連絡調整など、妊娠期から子育て期及びその先を見据えた支援を行うため、子育て世代包括支援センターを設置します。
施策2 多様な保育の充実		
事業	保育の充実促進事業	一時預かり保育や休日保育、病児保育など、ニーズに応じた多様な保育を進めます。
施策3 子どもや子育て家庭をみんなで見守り育む環境づくり		
事業	青少年の健全育成事業	「青少年育成町民会議」において可児警察署等と連携し、青少年健全育成や非行防止活動を展開します。
施策4 「食」の大切さを広める食育の推進		
事業	地域ぐるみの食育推進事業	保育園や幼稚園、学校、企業などとの連携、情報共有を通じて、全町的に食育を推進します。
その他主な事業		
<ul style="list-style-type: none"> ・ (仮称) 中保育園・中児童館整備事業 ・ IoT を活用した教育推進事業 ・ ファミリー・サポート・センター充実事業 ・ 子育て短期支援事業 ・ 家庭教育学級事業 ・ ワーク・ライフ・バランス推進事業 		

施策2 移住促進、2地域居住等による定住・関係人口の創出

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
移住交流・子育て支援ポータルサイトアクセス数	－	月3,000人以上	3,618人	月4,000人以上
東京圏からの移住就業者数	－	1人	－	5人
空き家バンク登録物件の成約数	－	－	15件	35件

◇施策の方向

良質で健康的な住まい確保を支援して、御嵩町の自然豊かな暮らしや人々の暖かい“きずな”の中でライフスタイルの実現を目指す人々の移住・定住を図ります。

このため、住民が誇りと愛着（シビック・プライド）を高めるとともに、都市部の人々や御嵩町に縁がある人々などに対し、住まいや居住環境、雇用機会、生活サービス、可能なライフスタイル等について十分に情報を提供しながらシティ・プロモーションを展開します。

◇主な施策

施策1 移住・定住の促進		
事業	移住交流・子育て支援ポータルサイトブラッシュアップ事業	空き家バンクや移住交流に関する情報、子育て支援に関する情報、仕事、町内企業についての情報などを包括しているポータルサイトのよりいっそうの充実を図ります。
施策2 空き家対策の推進		
事業	空き家家財道具等処分費補助事業	空き家に残存する家財道具の処分にかかる費用を補助し、空き家の利活用を進めます。
施策3 「みたけを愛する人」「みたけに関わりたい人」の創出		
事業	みたけの魅力発信事業	御嵩町の歴史文化や自然、近況、取組みなどについて積極的に情報発信するとともに、情報発信の輪を広げて、来訪や活躍の機会を提供します。
その他主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・東京圏からの移住就業支援事業 ・クラウドファンディング支援事業 ・クラウドファンディング型ふるさと納税実施事業 		

施策3 暮らしの安全・安心の確保

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
防災リーダー数	93人	200人	193人	250人
人口当たりの認知症サポーターの割合	-	-	6.3%	9.0%
みたけ健康ポイント応募者の20歳以上の人口に占める割合	-	-	7.7%	10.0%

◇施策の方向

大規模地震や水害にも安全な強靱なまちづくりを進めるために、亜炭鉱廃坑対策を着実に進めるとともに、防災拠点・交流拠点となる新庁舎の整備、地域における防災体制を充実します。

また、高齢者や障がい者、子育て世代など、誰もが安心して暮らし続けることができるよう、地域における支え合いの充実と、健康づくり、高齢者などの活躍の場づくりを進めます。

◇主な施策

施策1 安心・安全な庁舎建設の推進		
事業	新庁舎等整備事業	災害時に指令機能を十分に発揮し、防災情報ネットワークが充実した安心で安全な庁舎を整備します。
施策2 亜炭鉱廃坑対策・防災対策の推進		
事業	南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災対策事業	国により措置された本事業に基づき、計画的に防災工事を進めます。
施策3 地域防災人材の育成		
事業	地域における防災人材の育成推進事業	消防団員の確保を図るとともに、防災リーダーの養成講座や地域住民主体の防災訓練の実施等により、防災人材の育成に努めます。
施策4 医療・福祉の連携と町民の健康増進		
事業	みたけ健康ポイント事業	各種健診や健康づくりのための教室への参加に応じてポイントを付与することで、町民の健康増進活動への参加を促します。
その他主な事業 ・特定鉱害復旧事業 ・耐震化推進事業 ・公共施設等適正維持管理事業		

基本目標3 挑戦のバイタリティーを

目指す将来の姿

- ◎新産業・新分野に挑戦する企業や若者の起業が盛んになっており、農業、工業、商業・サービス業や観光業等が雇用の機会を増やしています。
- ◎高等学校においてキャリア教育が充実し、御嵩町で働くことの魅力が高校生や若者に理解されて、町内に就職する学生が増加しています。

◇数値目標

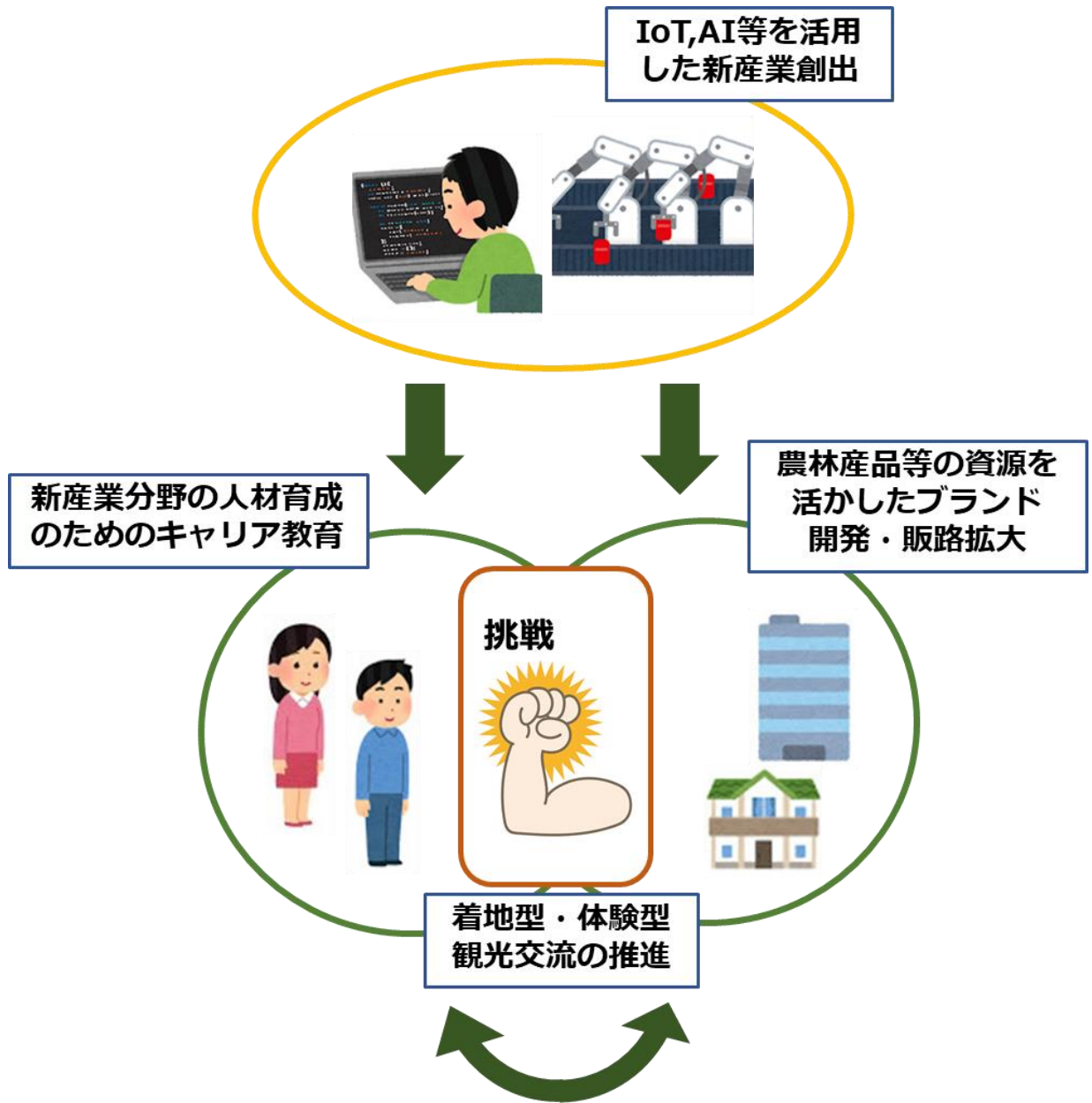
	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
町内従業者数(事業所単位)	7,202人	8,000人	7,284人	8,000人
観光入込客数	51万人	53万人	47万人	51万人

◇SDGsの推進



- ◎技術向上及びイノベーションの推進、生産活動や適切な雇用創出、起業を促します。
- ◎若者の就労促進、女性が働きやすい環境を創出します。
- ◎持続可能な産業化を促進するとともに、環境に配慮した技術等の導入を進めます。
- ◎雇用創出、文化振興・商品販促につながる持続可能な観光を振興します。

推進イメージ



施策1 IoT、AI等を活用した新産業創出

◇KPI

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
IoT、AI等を導入している企業数	－	－	－	2社
支援事業を通じた起業者数	－	－	0人	3人
本社機能を移転した企業数 (スモールビジネスを含む)	－	1社	0社	1社

◇施策の方向

グリーンテックみたけなど工業団地を中心とした企業誘致により製造業の拠点を形成してきた御嵩町に若者が移住・定住したくなるように、工業団地に限らず全町的に、多様な雇用の場を充実します。

◇主な施策

施策1 新産業を担う人材の育成		
事業	IT人材育成事業	プログラミング教室やオリジナルアプリ開発の支援のほか、学校の授業において外部講師による授業展開など、ICT、IoT等を最大限に活用することができる人材を育成します。
施策2 企業と起業支援の強化		
事業	企業誘致・企業支援等事業、起業者応援事業	成長産業の立地、企業誘致に対する奨励金制度や、移住就業者等に対する支援制度の充実を図ります。
その他主な事業		
<ul style="list-style-type: none"> ・工業用地の開発可能性調査 ・中小企業資金融資制度あっせん事業 ・商工会補助事業 		

施策2 農林産品等の資源を活かしたブランド開発・販路拡大

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
新規就農者数	0人	1人	1人	2人
御嵩町特産品開発普及協議会の販売額	-	-	674千円	1,348千円

◇施策の方向

農産物等の資源を活かし、その付加価値を高める6次産業化と販売促進を進めることにより、新規就農の促進や農地の保全を図ります。

◇主な施策

施策1 地域の農業を支える人材の確保と育成			
事業	農業担い手育成推進事業	就農相談から営農定着、ドローン活用を含む機械化等、農業の担い手を総合的に支援します。	
施策2 農業6次産業化の推進			
事業	農業6次産業化推進事業	継続的な事業運営を図るため、経営やマーケティング等の専門家による人材育成を促進します。	
施策3 「みたけのええもん」をはじめとする特産品の販路拡大			
事業	特産品のインターネット販売導入事業	特産品の知名度向上と販路拡大を促進するため、インターネット網を活用した新たな販売手段を開拓します。	
その他主な事業			
・農地中間管理事業 ・みたけのええもん等販売促進事業			

施策3 新産業分野の人材育成のためのキャリア教育

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
東濃高校生、東濃実業高校生の町内就職者数	—	—	13人	20人
工業団地における町内居住従業員率	21.0%	23.0%	22.2%	25.0%

◇施策の方向

高校生や大学生などの若者が御嵩町で就労することができ、企業側としても優れた人材を円滑に確保することができる環境を整えて、地域経済の活性化を図ります。

◇主な施策

施策1 「みたけ」で就労する人材の確保と育成		
事業	地域課題解決型キャリア教育事業	高校における地域を学び場とした地域課題解決型のキャリア教育事業を展開し、高校生の地元就職に繋がります。
施策2 ICT教育の推進		
事業	ICTを活用した教育支援事業	各学校にタブレット端末等の導入を進めるとともに、先生への研修等を進めることで、より効果的にICTの活用が進むよう支援します。
その他主な事業 ・IT人材育成事業		

施策4 着地型・体験型観光交流の推進

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
御嶽宿わいわい館の入館者数	9,991人	12,000人	8,058人	12,000人
滞在型農業体験施設の宿泊者数	-	-	-	3,600人

◇施策の方向

御嵩町の資源を掘り起こしながら着地型・体験型の観光プログラムを開発するとともに、積極的な観光PRと誘客を強化します。

◇主な施策

施策1 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機とした観光誘客			
事業	「麒麟がくる」ゆかりの武将可児才蔵魅力発見事業	可児才蔵にまつわる秘話や魅力について情報発信する拠点整備やイベントを開催するなど、大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会等と相互に連携した観光誘客を進めます。	
施策2 御嵩町史の語り部の育成			
事業	戦国武将の語り部育成事業	御嵩町に縁のある可児才蔵や関わりの深い武将などについて学び、観光客に紹介することができる語り部の育成を推進します。	
施策3 中山道の宿場町等の再生			
事業	宿場町のにぎわい創出事業	中山道御嶽宿・伏見宿界限において、歴史文化を活用した観光のほか、商業等を組み合わせた新しい宿場町の形成を図ります。	
施策4 滞在型農業体験の推進			
事業	滞在型農業体験施設活用事業	古民家を改修した滞在型農業体験施設を活用して、多様な農業体験や里山体験等の事業を展開します。	
その他主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・観光プロモーション促進事業 ・街並み保全事業 ・鬼岩公園環境整備事業 			

基本目標 4 みたけのレガシー創出を

目指す将来の姿

- ◎御嵩町の公式 SNS において注目される取組みが増えるとともに、多様な来訪者や関係人口が増えています。
- ◎地域と連携した学校教育、高等学校教育が充実して高校生等子ども達がいきいきと育っており、地域において若者も高齢者も積極的に社会参加しています。
- ◎多様な関係人口が増え、町民ときずなを深めたり一緒に活動しており、それぞれの地域が町民や関係人口により賑わっています。

◇数値目標

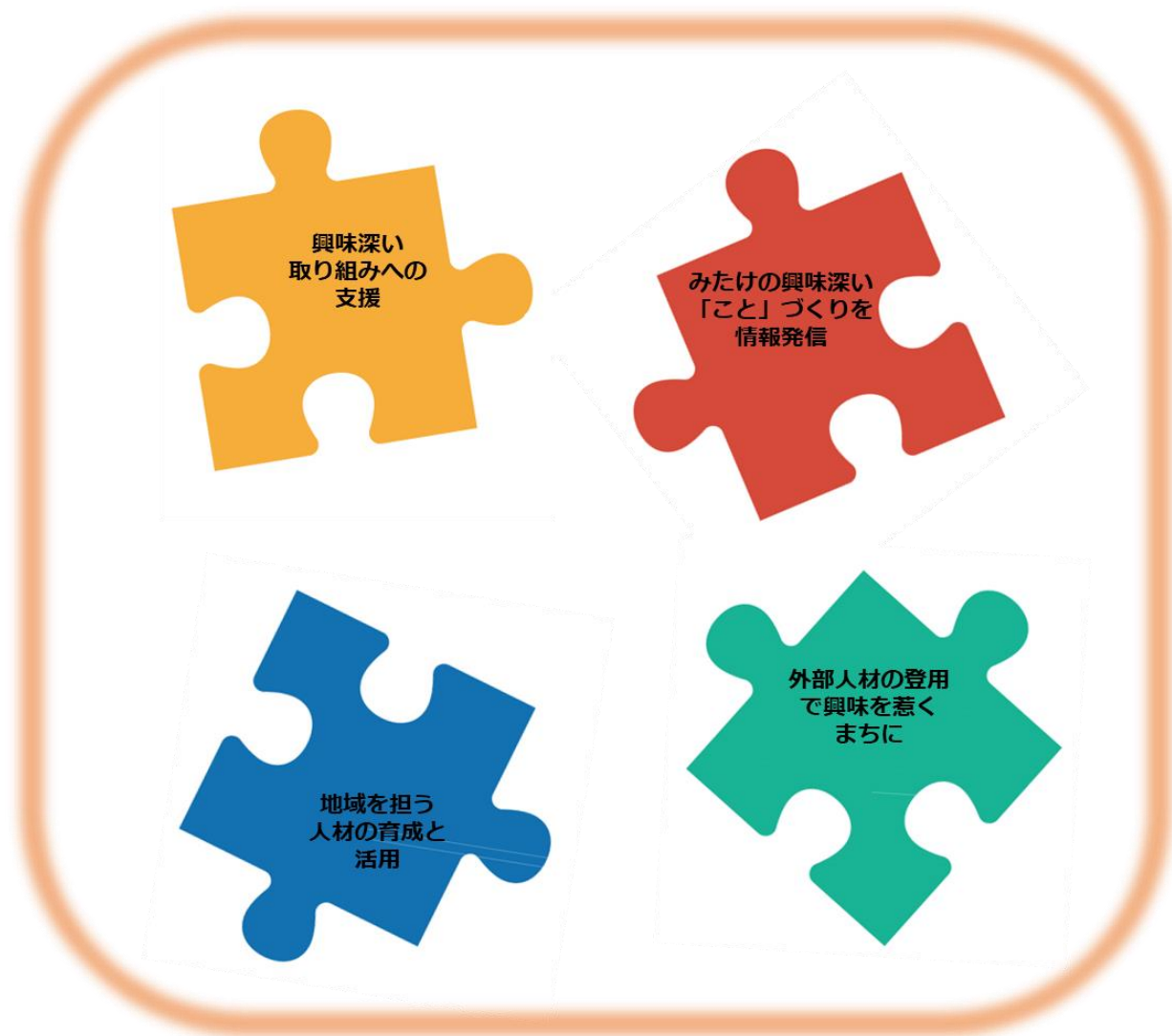
	基準値 (2014 年度)	第 1 期目標値 (2019 年度)	第 2 期基準値 (2018 年度)	目標値 (2024 年度)
郷土を誇れると思う人の割合	18.9%	23.3%以上	25.7%	30.0%

◇SDGs の推進



- ◎多文化共生を進めるとともに、各種団体や、外国人材や他地域の人材が活躍できる環境を整えます。
- ◎各種団体や他地域の人材が町内でいきいきと活動できるような場づくりを行います。
- ◎行政と地域住民、企業、外部人材など様々な主体が協働してまちづくりに取り組んでいます。

推進イメージ



みたけのレガシー

施策1 興味深い取組みへの支援

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期基準値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
支援事業によるクラウドファンディング案件公開件数	－	－	3件	9件

◇施策の方向

ユニークな発想に基づく活用やビジネスを支援する場として、御嵩町のイメージアップや情報発信力を強化して、交流人口や関係人口を創出します。

◇主な施策

施策1 夢の実現を目指す、活力ある団体活動への支援		
事業	クラウドファンディング支援事業	クラウドファンディングのノウハウを活かし、専用サイトへ申請する前段階で意思の伝え方などのレクチャーを行うことで、地域の皆様の夢を形にするお手伝いをします。
その他主な事業		
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進支援事業 ・ドローン活用人材育成事業 		

施策2 みたけの興味深い「こと」づくりを情報発信

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期実績値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
町SNSのフォロワー数	-	-	3,020 件	4,000 件
町が導入したアプリのダウンロード数	-	-	9,624件	13,000件

◇施策の方向

新庁舎を交流の場とするとともに、外国人材との交流や多文化共生を進め、みたけを情報発信する人々の拡大を図り、“きずな”づくりを進めます。

◇主な施策

施策1 みたけの「シンボル」の形成			
事業	多世代交流の場としての新庁舎整備	安心・安全な庁舎はもちろんのこと、多様な住民活動、多世代交流などのまちづくりに貢献する庁舎整備を推進します。	
施策2 外国人材との積極的な交流の推進			
事業	多文化共生のまちづくり推進事業	外国人の居住者や観光客等との食や街道をテーマとした交流を推進することで、外国人材の地域への参加を促進し、外国人材との相互理解を深めます。	
施策3 みたけの情報発信者の“つなぎ”			
事業	みんなでみたけのインフルエンサー事業	行政情報の発信とともに、住民や「みたけに興味のある人」が自ら積極的に御嵩町の情報発信する「みたフルエンサー」の拡大を図ります。	
その他主な事業 ・ゴルフ場を経由した情報発信事業			

施策3 地域を担う人材の育成と活用

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期実績値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
学校教育施策に対する満足率	14.5%	20.0%	17.3%	20.0%
「げんきボランティア65」登録者数	—	—	306人	380人

◇施策の方向

学校と地域が連携して「ふるさと教育」やキャリア教育、外国語教育等を充実して若い人材を育成するとともに、高齢者の活躍を促進して地域の持続性を高めます。

◇主な施策

施策1 地域に根差したふるさと教育の充実			
事業	地域学校協働活動事業	地域で学校行事や施設管理、教育等に主体的に携わるとともに、児童生徒の地域活動への参加の拡大を図ります。	
施策2 グローバル社会に対応した教育の充実			
事業	外国語教育等推進事業	外国語指導助手（ALT）、地元高校や企業等との連携により、外国語でのコミュニケーション能力の向上に主眼を置いた外国語教育を展開します。	
施策3 高齢者の経験や知識を活かした地域活力の創出			
事業	地域の支え合いボランティアポイント事業	介護予防、日常生活の支援のボランティアを行った高齢者に対してポイントを付与する制度「げんきボランティア65」をより一層推進し、高齢者の地域での活躍を促進します。	
その他主な事業			
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール推進事業 ・大学のサテライト研究室・ゼミの誘致 			

施策4 外部人材の登用で興味を惹くまちに

◇K P I

	基準値 (2014年度)	第1期目標値 (2019年度)	第2期実績値 (2018年度)	目標値 (2024年度)
外部人材による講座の参加者数 (5年間累計)	—	—	—	2,000人

◇施策の方向

御嵩町において「ひと・もの・ことの縁結び」を進めるために、外部人材と町民を結び、新たな活動やビジネスを創出していく関係人口を創出します。

◇主な施策

施策1 外部人材が持つスキル・ノウハウの町民への伝達		
事業	外部人材招聘事業	あらゆる分野において、外部の人材による講座・研修、体験機会を設けて、町民がスキルやノウハウを習得する機会を提供します。
施策2 外部人材を関係人口に		
事業	外部人材の自主事業支援事業	講師やインストラクターとして招聘した外部人材による御嵩町における新たな活動やビジネスに際して、その試行や推進を支援します。

発 行 者：御嵩町

令和 2 年 3 月 31 日 初版